

令和7年度第3回京丹後市韓哲・まちづくり夢基金運用委員会 会議録

- 1 開催日時 令和8年1月30日（金）午後2時00分～午後4時45分
- 2 開催場所 京丹後市役所 峰山庁舎1階 211会議室
- 3 出席者氏名

(1) 京丹後市韓哲・まちづくり夢基金運用委員会委員（6名中5名出席）

出席：行待佳平 委員長、今井みどり 副委員長、田中匡代 委員、小谷順一 委員
川口勝彦 委員

欠席：吉野有香 委員

(2) 事務局、関係部局

引野雅文 市長公室長

島貫博志 市長公室政策企画課長

青木滉人 市長公室政策企画課主事

上羽正行 教育委員会事務局学校教育課長

上田明子 教育委員会事務局学校教育課係長

西村隆 教育委員会事務局教育総務課長

松本優 教育委員会事務局生涯学習課長

下戸裕子 教育委員会事務局生涯学習課スポーツ推進室長

平林智子 市民環境部市民課長

金子隆行 こども部こども未来課長

北尻光 こども部こども未来課係長

4 議事等

(1) 委員長あいさつ

(2) 議事

ア 基金運用益等の状況について

イ 令和7年度基金運用益等活用事業の実施状況（中間報告）について

- ・グローバル人材育成事業
- ・プログラミング教育推進事業
- ・いじめ・不登校防止対策等総合推進事業
- ・大阪・関西万博体験事業
- ・韓哲・まちづくり夢基金事業補助金
- ・SDGs推進事業
- ・高等学校全国募集入学生応援事業
- ・大学等受験料支援事業
- ・第5回京丹後市民陸上記録会
- ・国際大会・全国大会出場者への激励金
- ・京丹後市文化芸術振興計画及び文化庁移転に伴う文化芸術推進事業
- ・地域公民館管理運営事業

- ・図書館管理運営事業
 - ・社会体育団体育成事業
 - ・青少年教育事業
- ウ 令和8年度基金運用益等活用事業（案）について
- ・グローバル人材育成事業
 - ・プログラミング教育推進事業
 - ・いじめ・不登校防止対策等総合推進事業
 - ・メタバース教育支援センター設置事業
 - ・韓哲・まちづくり夢基金事業補助金
 - ・未来創生まち創り人材育成事業
 - ・高等学校全国募集入学生応援事業
 - ・大学等受験料支援事業
 - ・国際大会・全国大会出場者への激励金
 - ・京丹後市文化芸術振興計画及び文化庁移転に伴う文化芸術推進事業
 - ・地域公民館管理運営事業
 - ・社会体育団体育成事業
 - ・青少年教育事業
 - ・第6回京丹後市民陸上記録会
 - ・青少年スポーツイベント
 - ・男女共同参画啓発事業
 - ・こどもの居場所・あそび場づくり推進事業

(3) 副委員長あいさつ

5 公開又は非公開の別 公開

6 傍聴人の人数 0人

7 要旨

≪議事経緯≫

(1) 委員長あいさつ

本日は大雪の中、またお忙しいところ本委員会にご出席いただき感謝申し上げます。本日は令和7年度事業の中間報告もあるということで、さまざまお話を聞きながら、審議させていただきたい。長丁場になると思うが、よろしく願いしたい。

(2) 議事

ア 基金運用益等の状況について 資料1

(説明) 資料に基づき、事務局から説明。

(質疑応答) なし

イ 令和7年度基金運用益等活用事業の実施状況（中間報告）について 資料2

ウ 令和8年度基金運用益等活用事業（案）について 資料3

(説明) 資料に基づき、各担当課から令和7年度事業の中間報告と令和8年度事業の提案。

(質疑応答) 各事業に関する質疑応答は下記のとおり

【大学等受験料支援事業】 **資料2**

(委員) 令和7年度認定者が2名となっており、令和6年度と比較して、認定者が減少しているが、その要因は何か。

(教育総務課) 3月まで募集している。現在、受験シーズンを迎え、今後は認定者数が増加するのではないかと想定している。

(委員) 対象が住民税非課税世帯の子どもということだが、何人程度を想定されているか。

(教育総務課) 当初は50名程度を想定していた。これは進学希望の有無に関わらず、住民税非課税世帯の中で対象となる年齢の子どもの数から算出している。

(委員) 大学受験には多額の費用が必要であり、住民税非課税世帯の中で希望する生徒は少ないのではないか。また、住民税非課税世帯の基準を教えてください。

(教育総務課) 住民税非課税世帯の基準について、子どもがいる夫婦の場合は、世帯年収は221万円以下であれば対象となる。日本学生支援機構でも、給付型奨学金等を設けており活用することができるが、委員がおっしゃる通り大学受験には多額の費用が必要となるのが現状である。ただ、本市としては、そういった費用の課題がある世帯の子どもでも、大学進学の夢を諦めることがないように本制度を創設している。

(委員) 対象が50人程度という中で、申請が3名という状況なので、市民に知っていただくために、しっかりと周知をお願いしたい。

【社会体育団体育成事業】 **資料2**

(委員) 団体活動補助金は各教室への補助金か。

(生涯学習課) 各教室への補助金として年度末に交付している。毎年3月に各教室から実績報告書を提出いただき、子どもの人数等に応じて補助額を決定している。

(委員) 子ども一人当たりの補助額は。

(生涯学習課) およそ500円。

【第6回京丹後市民陸上記録会】 **資料2** **資料3**

(委員) 陸上記録会事業は6年続いているが、今後も本基金を活用して開催していくのか。また、車いす競技の部では、距離の部門に応じて募集をしているようだが、申し込みがなく実施していない部門もある。どの程度の参加者を想定しているのか。

(市長公室長) 経過としては、はごろも陸上競技場が完成したことを記念して始まった記録会である。目的としては、陸上はすべてのスポーツの基礎となる競技であるほか、大会とせずに記録会にすることで選手でなくても誰もが参加することができることから、記録会を通じて子どもからお年寄りまでスポー

ツに親しむきっかけや、自分の体力向上を確認してもらいたいというねらいがある。

(委員) 令和7年度のエントリー数が134名であったに対して、令和8年度の定員は250名となっているが、この定員数は見込めるのか。

(生涯学習課) 毎年、定員250名で募集している。

【国際大会・全国大会出場者への激励金】 資料2 資料3

(委員) 激励金は出場前、出場後どちらで交付しているのか、

(生涯学習課) 出場前に交付している。夏の全国大会前に交付している。

【図書館管理運営事業】 資料2

(委員) マイナンバーカードを利用した図書館利用者の実績は、周知が足りないと感じるため、積極的な周知をお願いしたい。

(生涯学習課) 現在、実績を持ち合わせていないため、後日、回答させていただく。

→回答：11月21日（金）より運用開始。1月30日（日）現在では、52名が連携手続き済み。広報の現状は、マイナンバーカード連携の案内を館内掲示、広報誌に掲載、図書館ホームページへの掲載、市Facebookへの掲載、図書館だよりへの掲載（全戸配布）を実施している。今後の改善策としては、館内掲示を目につくように見直す、広報誌に掲載（時機を見て繰り返し掲載）、市Facebook、市LINEへの掲載、市防災行政無線での紹介、図書館の事業開催時にカード連携について紹介する等を検討していく。

(委員) 本システムは市内の各図書館どこでも利用可能か。

(生涯学習課) システムが連携しているため、どの図書館でも利用可能。

【青少年教育事業】 資料2 資料3

(委員) 地域こども教室の具体的な教室名と活動内容を教えてください。

(生涯学習課) 市内で5団体ある。峰山町では「新山ひこばえの集い」という団体が、農業体験、茶道教室、囲碁・将棋教室等を行っている。大宮町では「ブーフマム」という団体が、七夕祭り、クリスマス会、ひな祭り、図書活動等を行っている。久美浜町では3団体が活動しており、「チャレンジ教室」という団体が、大工仕事教室、亀釣り大会、ドミノ倒し、映画会等を行っている。久美浜町2区の「こども広場」という団体では、植物の栽培活動、魚釣り、ニューススポーツ体験等を行っている。「土曜お楽しみ会」という団体では、交通安全教室、ドミノ倒し、クリスマス会等を行っている。

【京丹後市文化芸術振興計画及び文化庁移転に伴う文化芸術推進事業】 資料2 資料3

(委員) 令和7年度と比較して、令和8年度は事業費が上がっている理由は。

(生涯学習課) 「100年後の文化、100年後の丹後を考える」という勉強会を新規事業として予定しており、ゲスト招聘費および会場借上費で増額している。

【男女共同参画啓発事業】 **資料3**

(委員) 本事業は今後も継続していく予定か。

(市民課) まずは中学校で講座を受けていただき、高校に進学された先で2回目の講座を受けていただく予定。DVを知っていただき、互いの性を理解し合い、互いを尊重する心を育み、子どもたちが将来、加害者にも被害者にもならないように育てることを目的としている。

(委員) 小学生を対象としていない理由は。

(市民課) まずは中学生と高校生を対象にしていきたく、教育現場の声を聞きながら、小学生まで対象を広げる必要があるか検討していきたい。

【こどもの居場所・あそび場づくり推進事業】 **資料3**

(委員) 都市拠点整備事業との整合性は。大宮町、弥栄町に遊び場の整備が提案されていない理由は。

(こども未来課) 峰山町に都市拠点施設ができれば、峰山総合福祉センターに整備した遊び場は、新しい都市拠点施設へ移設する想定。また、本事業で培ったノウハウを都市拠点施設にも活用したい。都市拠点施設が完成するまでの間に、本当に各地域に遊び場が必要なのか、ニーズ調査も含めて検証していきたい。他の3町の遊び場については、都市拠点施設が完成すれば撤去ということは想定していない。現在作成中の都市計画マスタープランでも、都市拠点と地域拠点の相乗効果を示しており、この計画に則りながら本事業を検討している。遊び場を選定する際の基準としては、①最低限の遊びのスペースが確保できること、②冷暖房設備があること、③駐車場があること、④将来的な地域拠点を見据えた場所であること、といった観点で選定した。廃校を活用するという事も検討したが、冷暖房設備がないため断念した。他にも大宮町では、大宮織物ホールも検討したが、空調の課題があり断念した。弥栄町では、弥栄地域公民館の空きスペースの活用も検討したが、市民団体の利用が多く断念している。最小限の事業費で実施すると、提案させていただいている4施設が妥当と考えたもの。

(委員) 丹後庁舎にプレイカーを設置する理由は。

(こども未来課) 市内全域どこでも行くという想定。固定の遊び場がない場所にも派遣できるように整備を検討している。例えば、地域の納涼祭にプレイカーを呼んで、遊び場を設置するなどを想定している。また、子供たちが遊びに来ない普通の公民館でも、このプレイカーが行けば、公民館を遊び場に変えることができる。地域の現状としては、地域に子供が少ないことから、子供向けのイベントも少なくなっているほか、周りにも遊ぶ友達もいないという状況にある。プレイカーが地域に来ることで、子供たちが自分の足で遊び場に行ける状況を作りたい。

(委員) プレイカーを呼ぶために費用は必要か。

(こども未来課) 無料で実施する予定。主催団体と内容等を調整の上で出張する。全国的にも広がっている取組。東京では何万人単位で人を集めている事例もあるほか、地方でも実施されている。

(委員) プレイカーの利用は何曜日に利用可能か。その理由は。

(こども未来課) 他の遊び場と同様に土曜日・日曜日・祝日に稼働させる。理由としては、地域のイベントが開催されることの多いことのほか、大人同伴で来ていただくことを想定しているため、大人と一緒に行きやすく、子どもが学校に行っていない休日を選んでいく。

(委員) 子供が少なくなっている中だが、どの程度の子供が来る想定か。

(こども未来課) 各施設の定員を設けている。1日3枠あり、1枠あたり子どもが20人、親が同伴で来るため、合計40人を想定している。1日では子供は合計60人利用できるように運用を考えている。

(委員) 地域にどのぐらいの子供がいて、どのぐらいの利用ニーズがあるかという調査が重要だと思う。整備だけでなく、整備したものをどのように活用していくのかが重要。

(こども未来課) 令和6年度に「一日こども広場」を峰山福祉センター、網野体育センター、久美浜公会堂を用いて1日限定で開催した。臨時的に各施設に子供が安心して遊べるようにマットを敷いたり、大型遊具を設置したりして開催した。申し込みが満員になるぐらい大変好評だった。峰山会場では平均40人、網野会場は38人、久美浜会場は20人以上の来場があった。1時間4クールで開催したが、4クールとも定員まで申し込みがあった。また、来場者へのアンケートでは「近場にこのような遊び場が欲しい」という意見があった。現在は豊岡市にある「WACCU」や宮津市にある「にっこりあ」、綾部市にある「あやテラス」等に行くしかない状況であり、このような意見をいただいたのではないかと考えている。市民公聴会においても、気軽に立ち寄れる遊び場が地域にあれば、ぜひ利用したいという声が多くあった。これらの開催実績やアンケート結果からも十分に本事業の利用者は見込めるのではないかと考えている。

(委員) 上手く運用ができれば、平日に行ける遊び場を求める声も多くあるため、ぜひ平日の運用も検討いただきたい。委託先として想定している事業者はあるか。

(こども未来課) 見守り人材の確保が課題となっているため、まずはスモールスタートで始めたいが、意向を聞きながら平日にも拡大も検討していきたい。具体的な事業者までは申し上げられないが、想定している事業者は複数ある。また、単に見守りができれば良いということではなく、子どもの成長や学びに繋がる遊び場を目指していきたいと考えているため、そのような目的に意欲的で、ノウハウを併せ持った事業者を選定したい。

【メタバース教育支援センター設置事業】 資料3

(委員) 学校に通いにくい児童・生徒とあるが、具体的にはどのような生徒を想定しているか。

(学校教育課) 様々な事情の生徒がいる。教室には入れないが、学校には行ける生徒はフリースクールがあり、学校には行けないが、外出はできる生徒には麦わらがある。ただ、家から出れず、家で外に出るためのエネルギーを貯めて

いる段階の生徒に対しては、支援が届きにくい状況にある。そういった生徒の選択肢の一つとして、本事業を提案させていただきたい。

(委員) 学校教育においては、対面で生徒の表情を見て対応することが基本であり、重要だと考えているため、デジタルも活用しながら、バランスよく活用いただきたい。

(委員) 「共同利用の各市町との交流」と記載があるが、具体的にどのような事例があるか。

(学校教育課) 京都府内では亀岡市、綾部市が実施を検討している。他市町とも「どのように運用すれば効果が出るのか」を意見交換しながら、有効的な活用方法を探っていきたい。

【未来創生まち創り人材育成事業】 資料3

(委員) 学校以外で子供たちが本音で語れる場所は大切だと思う。

(委員) 夢まち創り大学事業の予算について、大学運営補助金とは具体的にどのような内容か。

(政策企画課) 主な経費としては、大学と地域の間を結ぶコーディネート業務に係る事業者への委託費や大学から京丹後市を結ぶバスの運営委託料等も含まれている。

(委員) 夢まち創り大学の大学生が roots の高校生と連携した事例はあるか。

(政策企画課) roots を訪れる高校生と近畿大学の大学生がカードゲームを活用したワークショップを実施している。

(委員) インターンシップ事業等を通して、IターンUターン者の獲得にもつなげていただきたい。

(政策企画課) 実際に夢まち創り大学事業でのインターンシップ等が I ターンUターン者の獲得に繋がった事例も出てきている。今後も移住や就職も一つの目指すべきゴールとして進めていきたい。

(4) 副委員長あいさつ

委員の皆様から貴重なご意見をたくさんいただき、ありがとうございました。本日は、基金運用状況や令和7年度基金活用事業の実施状況の報告、令和8年度の基金活用事業の提案をいただきました。継続事業も増えている中で、今後の基金活用事業については、改めて運用方法を検討いただきたいと思います。これからも子供たちの夢の実現、京丹後市の発展のために有効に活用されることを願っています。韓哲・まちづくり夢基金の趣旨を大切にしながら、今後も着実に運用を進めていきましょう。